Ⅲ．ベトナム国家大学ハノイ外国語大学への教員派遣事業

１．派遣教員、奈良女子大学研修生

派遣教員	鈴木　康史	奈良女子大学研究院人文科学系人間科学領域　准教授
研修生	山城　才子	奈良女子大学人間文化研究科　博士前期課程

２．派遣期間および現地での活動

11 月 25 日（日）　出発（関空～ハノイ）
11 月 26 日（月）　打ち合わせ　トウイ学部長と
11 月 27 日（火）　講義
11 月 28 日（水）　講義
11 月 29 日（木）　講義
11 月 30 日（金）　講義
11 月 30 日（土）　帰国（ハノイ発）
12 月 1 日（日）　関空着

３．事業の概要と評価

３－１　シラバス
①高度経済成長期の日本文化
１．「戦後」社会と大衆文化
２．家族の変容
３．日本的経営の誕生
４．エネルギーと経済
５．サブカルチャーの形成　～マンガ
６．サブカルチャーの形成　～アニメ
７．サブカルチャーの形成　～歌謡曲
８．サブカルチャーの形成　～映画

②東日本大震災後の日本文化
９．「戦後」の終わり
10．「豊かさ」とは
11．震災と文化　～文化に何ができるのか

12. FUKUSHIMA のイメージ
13. 一極集中か地方分権か
14. 詩と文化
15. まとめ

３－２　事業の概要と評価

11 月 27 日、28 日、29 日を使って、鈴木がシラバスの内容を講義した。受講生の知識や興味によって授業内容は大幅に変更したところもある。たとえば、予定にはなかった日本の童謡や唱歌を多数紹介した。こうした臨機応変の対応が必要であるため、ネット環境は重要である。

30 日は同行研修生の山城が、沖縄文化について講義し、後半はエイサーの踊りを実際にみんなで踊ってみる講義を行った。こうした体を使って文化を実際に学ぶ授業は毎年好評である。

講義自体は、私自身が 3 年目であるということで、非常にスムーズに行うことができたように思う。受講生たちのニーズもおおよそ理解できていたので、今年はこれまでで一番反応が良かったように思う。

事業全体としても一定の基礎固めは出来たのではないかと思う。すでにこの事業がハノイ大学とのダブル・ディグリー・プログラムなどへと発展しようとしているが、今後も教員派遣を継続的に行うことで、さらにさまざまな学術交流が可能になるだろう。

だが、そこにおいても、一番重要なのは、派遣教員ひとりひとりがベトナムの学生たちに何を提供できるかということであろう。今後も考えてゆかねばならない課題である。

なお、後に掲載される授業のレジュメ（**参考資料1**　参照）であるが、授業ではパソコンに入っているこのレジュメを映写し、必要な時にこれに直接文字を打ち込むことで黒板代わりにする形で進めた（黒板が使いづらいこともあって）。レジュメ中、脈絡のない単語があるのはそのためである。この形式は、ひらがな→漢字の変換が画面に直接うつしだされるので、学生たちの理解をはかるにも良いのではないかと思う。

参考資料 １

ベトナム国家大学ハノイ外国語大学 2012　奈良女子大学　鈴木康史

テーマ１ :「戦後」の日本の社会と文化
テーマ２ : 日本マンガは、なぜ、面白いのか？
テーマ３ :「震災後」の日本社会と文化

テーマ１ :「戦後」の日本の社会と文化

高度経済成長の構造（1950 後半～60 年代）

中央集権　富の再配分を強力に推し進める　　鉄鋼業

産業構造の変化　農業→工業→サービス業

加工貿易　　高い技術力とそれを支える教育システム　　工学

エネルギーの変化　石炭→石油→原子力

都市への人口流入　農村の過疎化

「公共事業」による農村への富の再配分(鉄道、道路、原発)

核家族　サラリーマンの父、専業主婦の母、子供　　婿養子

高福祉国家(大きな政府)　　国民皆年金、国民皆保険

家族的な企業と勤勉な国民　計画的　　決めたことをきちんと守る

ミクロン　ミリの１０００分の一

トヨタ、ソニーなど、世界的企業も

ナショナル（パナソニック）　松下幸之助

テーマ２ :「戦後」の文化の代表 : 日本マンガは、なぜ、面白いのか？

日本のマンガは大人も読む

ほかの多くの国では、大人は読まない　　なぜ？

一般に、マンガとは？？　＝　こども向け、明るく、楽しく、ハッピーエンド

主人公は成長しない

日本のマンガは　　＝　深いテーマ　人生とは？　家族とは？　**悲劇**

友情と努力/挫折と成長/愛と憎しみ/生と死/悲しみと喜び

手塚治虫以前のアニメ・漫画

主人公＝傷つかない身体、成長しない身体、生身の身体を持たない

「喜劇」「コメディ」「ギャグ」／「ヒーロー」による勧善懲悪

時間も流れない　Timeless Wonderland

ディズニー映画など

マンガに悲劇を持ち込んだのは　　手塚治虫（てづかおさむ）

手塚治虫が発見したものとは

「傷つく身体」＝「生身の身体」＝「成長する身体」

「生身なのに」「成長できない身体」

「生身ではないから」「成長できない身体」を描けば「悲劇」になる

手塚治虫は、戦争の体験から、本来楽しいはずのマンガの世界に悲劇を持ち込んだ

手塚治虫以降の日本マンガ（以下の梶原、井上参照）

人が成長するとはどのような意味があるのか？というテーマ

傷つく身体、成長する身体、生身の身体で、それを描く

時間が流れ、成長する主人公　Bildungsroman　building + roman

リアルな世界で人は悩み、苦しむ。それを乗り越えて成長する主人公を描く

ゲーテ（Goethe）　ヴィルヘルムマイスターの修業時代

藤子不二雄（ふじこふじお）

手塚の弟子である藤子不二雄の『ドラえもん』

Timeless Wonderland を描いているが、実は、傷つき成長するのび太も描いている

「さようならドラえもん」

八百万（やおよろず）の神　　嘘八百

末広がり（すえひろがり）

****

手塚の「傷つく身体」を受けついだのが　　**梶原一騎（かじわらいっき）**

「生身の身体」が「傷つき」ながら「成長する」が、最後に倒れてしまう

「成長できない」悲劇

スポーツマンガに「死」が登場する

スポーツ漫画を完成させたのが　井上雄彦（いのうえたけひこ）

「生身の身体」が「傷つき」ながら「成長する」物語　人は死なない

われわれの日常生活を描く　　悲劇から離れる

『スラムダンク』『バカボンド』『リアル』

テーマ３ :「震災後」の日本社会と文化

近代日本の歴史の大きな切れ目

1868 年　明治維新　　近代化の成功

1945 年　第二次世界大戦で敗戦　（～1952 までアメリカの占領）　**「戦後」という時代**
　　目覚（めざ）ましい経済発展
　　1954～73　高度経済成長　　冷戦体制　Cold War　アメリカ VS ソビエト連邦
　　1974～85　安定成長　オイルショック
　　1986～91　バブル経済　　1989　ベルリンの壁崩壊　冷戦終了　自由主義
　　グローバリゼーション開始
　　1991～　失われた 20 年　不況、長い停滞期　少子高齢化による財政危機
　　1995.1.17　阪神淡路大震

自民党(自由民主党)　５５年体制
2009 年の政権交代　民主党
第三極　橋下徹+石原慎太郎「日本維新の会」　新自由主義　道州制、地方分権
第四極　「いのちの党」　脱(卒)原発　小沢一郎　嘉田佳子？？

2011 年　3 月 11 日　東日本大震災と原発事故　**「震災後」という時代の始まり**

日本人の心の歴史

1945 年	日本は焼け野原（やけのはら）に　⇒しかし、「頑張れば明日は良くなる」
1990 年代～	「明日は今日より良い」という「希望」の喪失　不安
2011 年	「成長」「発展」神話（しんわ）の終わり

高度成長と同じシステムではもうやっていけない
　エネルギー問題　原発事故　エネルギーを原子力に頼ることの危なさ

　人口の一極集中と各地域の衰退
　　その象徴が福島の原発事故
　　大都市の電力を過疎地が供給
　　過疎地の人々は原発を止められない（政府から交付金がもらえる）
　地方分権の主張

少子高齢化の問題　　高度成長を支えた労働力＝団塊の世代（非常に人口多い）
　　年金、医療といった福祉の危機　　どこまで「自己負担」するのか

経済の問題　　長い不況と就職難

外交の問題　　アジアにおける日本の地位の低下
　　アメリカ、中国、アジア諸国との関係

参考資料 2

受講学生への課題

日本について書かれたベトナムの新聞や雑誌などの記事を、日本語に訳して、送ってください　　沖縄の文化についての感想も、お願いします

締め切り　12 月 31 日